

「和歌山県歯と口腔の健康づくり計画」中間見直しの概要

計画策定の背景

「歯科口腔保健の推進に関する法律」及び「和歌山県民の歯と口腔の健康づくり条例」の趣旨を踏まえ、平成26年3月に「和歌山県歯と口腔の健康づくり計画」が策定された。

計画策定の目的

- 歯科疾患の予防
 - 歯の喪失防止
 - 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上
- を目的として、本県の歯科口腔保健に係る状況を踏まえつつ、必要な歯と口腔の保健サービスを受けられるように環境整備を図ること。

計画の期間

2013（平成25）年度～2023（平成35）年度までの11年間。
→関連する計画（「和歌山県保健医療計画」「和歌山県健康増進計画」）と整合性を図るため、計画期間を1年延長。

評価の方法と課題の抽出

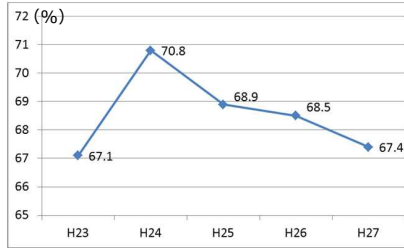
各指標の達成状況は策定時の値と直近値を比較して、その達成状況により5段階で評価した（「評価の結果」を参照）。また、目的に掲げた3領域に分類し、領域毎に課題を抽出。

評価の結果

評価区分	項目数
A1 改善しており、目標を達成している	6
A2 改善しているが、目標を達成していない	3
C 悪化している	1
D 策定した指標又は把握方法が異なるため評価困難	1
合計	11

悪化している指標

「進行した歯周病を有する者の割合（60歳）」は策定時（H23）より悪化。残存歯の増加傾向が原因と考えられる。



【対応策】

- 早期から歯周病予防に関する普及・啓発
- 歯周病検診を通じて早期発見・早期治療を行うことの勧奨等

今後に向けた目標の見直し

- ① 数値目標の上方修正（4項目）
中間評価の直近値が目標に達した項目等については、最終の評価年度に向けて新たな目標値を設定。
- ② 数値目標の設定（4項目）
具体的な目標値が定められていない指標（策定時より「減少」や「増加」等）については改めて具体的目標値を設定。
- ③ 指標の追加（2項目）
・ 口腔機能低下の端緒となる「オーラルフレイル」の認知度に関する指標を設定。
・ 「かかりつけ歯科医」が健康寿命の延伸に資するとの考えから「かかりつけ歯科医を決めている者の割合」を設定。

「和歌山県歯と口腔の健康づくり計画」の具体的指標一覧

具体的指標	策定時	現状値	策定時の目標値	目標値 2023（H35）	保健医療計画 への記載	健康増進計画 への記載
3歳児のむし歯のない者の割合 (厚生労働省 母子保健実施状況調べ)	75.4% (H24)	80.1% (H28)	85%	90%	○	○
12歳児の一人平均むし歯数 (和歌山県定期健康診断結果報告書)	1.2 (H24)	0.9 (H28)	1.0	0.7	○	○
12歳児のむし歯のない者の割合 (文部科学省学校保健統計調査)	54.2% (H24)	66.4% (H28)	65%	73%		○
フッ化物洗口実施施設数 (健康推進課調べ)	117 (H24)	148 (H28)	増加	200		
フッ化物洗口実施施設がない市町村数 (健康推進課調べ)	9市町村 (H24)	5市町 (H28)	減少	0市町村		
定期的にフッ化物歯面塗布を実施する市町村数 (健康推進課調べ)	2市町 (H24)	8市町 (H28)	増加	20市町村		
60歳における進行した歯周炎を有する者の割合 (歯周病検診結果：和歌山県歯科医師会)	67.0% (H23)	67.4% (H27)	50%	50%	○	○
60歳における24歯以上自分の歯を有する者の割合 (歯周病検診結果：和歌山県歯科医師会)	67.4% (H23)	79.7% (H27)	70%	80%	○	○
80歳における20歯以上自分の歯を有する者の割合 (県民健康・栄養調査)	21.3% (H23)	36.1% (H28)	40%	40%	○	○
60歳における咀嚼良好者の割合 (歯周病検診結果：和歌山県歯科医師会)	71.8% (H23)	79.4% (H27)	80%	80%		○
口腔機能向上関連事業を開催する市町村数 (健康推進課調べ)	24市町 (H24)	19市町 (H28)	増加	30市町村		
「オーラルフレイル」を知っている者の割合 (県民保健医療に関する意識調査)	—	5.4% (H29)	—	20%	○	
かかりつけ歯科医を決めている者の割合 (県民保健医療に関する意識調査)	—	70.5% (H29)	—	90%	○	